

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102356		
法人名	医療法人社団豊和会		
事業所名	グループホーム菜の花園		
所在地	栃木県宇都宮市平出町1666-1 (電話) 028-660-7564		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年1月16日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	18人	常勤13人(うち兼務13人), 非常勤5人, 常勤換算16人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円 (1室のみ34,000円)	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代—実費 ・おむつ代—実費 ・共益費—5,000円/月 ・水道光熱費—20,000円/月 ・娯楽共用費—100円/日 ・布団リース代—110円/日 	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400円	昼食	600円
	夕食	500円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年11月30日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88歳	最低	79歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮東病院、藤井脳神経外科、新直井病院、長谷川歯科、石川外科、村田整形外科、みやの杜クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは家族の介護を経験した法人理事の思いから平成15年に開設された。敷地内にはデイサービスセンター、小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、小規模多機能型居宅介護事業所とは棟続きになっている。職員の多くがグループホームとの兼務になっており一体的な運営をしている。管理者が看護師であることやかかりつけ医との協働のもと、医療的な処置を受けながら重度化、終末期ケアに対応できるような体制になっている。運営理念のほかに「わたしらしく あなたらしく 共に歩く」という介護理念をつくっており、職員の担当制を取り入れ、職員は個別の要望になるべく応えられるように日々の支援に取り組んでいる。入居までの体験期間を十分に設けて、入居者が少しずつホームの生活に馴染めるように配慮している。入居者の表情は穏やかで、ゆったりとした一日が流れていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は職員に報告し、手すりや便座のがたつき調整など具体的な改善に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 自治会、老人会、民生委員、地域包括支援センター(2カ所)に参加してもらい、ホームや併設施設の説明等をし、意見交換をしている。昼食を一緒にとってもらうことも予定している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用料の支払で月に1回はホームを訪れる機会をつくっている。担当制を取り入れ、担当者はなるべく変えないようにして職員と家族の関係性構築にも配慮している。状況報告・写真を送付したり、ホームに個人ごとのアルバムを用意している。預り金は利用料の請求の際に領収書を送付して報告している。職員が変わったときには家族の訪問の際に紹介している。年1回程度、広報誌を発行している。家族の訪問の際に意見等を聞くように心がけている。意見箱も置いているが利用はない。重要事項説明書にホームの窓口のほか市の窓口も明示している。記録の際に家族とのやり取りは文字色を変えるなど職員間で情報を共有しやすくする工夫もしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩中に近所の方に挨拶をしたり、近くにある市民センターを利用したりと地域の方との交流に努めている。昨年からは自治会に加入し、ホームの消防訓練に地域の方に参加を呼びかけて参加してもらうなど地域との付き合いが深まってきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人と人とのつながりのなかで、互いに支えあいながら人間らしく健康的で明るい共同生活を送れるように支援する」ことを基本理念とし、地域での活動も含めた6項目の介護方針を定めている。また、職員として大切にすることとして介護理念を定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念（介護方針）を玄関に、介護理念を事務スペースに掲出している。月2回実施しているカンファレンスでも折に触れて話をして理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩中に近所の方に挨拶をしたり、近くにある市民センターを利用したりと地域の方との交流に努めている。昨年からは自治会に加入し、ホームの消防訓練に地域の方に参加を呼びかけて参加してもらうなど地域との付き合いが深まってきている。	○	回覧板を利用して認知症やホームの理解を深めるための資料づくりをしていたり、来年からは老人会のお祭りへの協力を考えていたり地域との交流の充実を考えているので、地域の理解、関係が更に深まっていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は職員に報告し、手すりや便座のがたつき調整など具体的な改善に取り組んでいる。今回の自己評価は管理者がまとめた。	○	今後、自己評価についても職員全員で取り組むことで職員の意識あわせや振り返りの機会として役立てていくことに期待したい。

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、老人会、民生委員、地域包括支援センター（2カ所）に参加してもらい、ホームや併設施設の説明等をし、意見交換をしている。昼食を一緒にとってもらうことも予定している。	○	まずはホームや併設施設、認知症のことなどを知ってもらうことから始めている。多様な方に参加の働きかけをしたりもしているので、運営推進会議を活かした取り組みが充実していくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特段の用事がなくても月に1～2回は市役所や地域包括支援センターを訪ねるようにしている。介護相談員事業も利用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払で月に1回はホームを訪れる機会をつくっている。担当制を取り入れ、担当者はなるべく変えないようにして職員と家族の関係性構築にも配慮している。状況報告・写真を送付したり、ホームに個人ごとのアルバムを用意している。預り金は利用料の請求の際に領収書を送付して報告している。職員が変わったときには家族の訪問の際に紹介している。年1回程度、広報誌を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の際に意見等を聞くように心がけている。意見箱も置いているが利用はない。重要事項説明書にホームの窓口のほか市の窓口も明示している。記録の際に家族とのやり取りは文字色を変えるなど職員間で情報を共有しやすくする工夫もしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職による職員の変更はあるが、基本的に異動はない。担当制を取り入れ、なるべく担当職員を変えないようにしている。職員が変わる場合には、入居者に挨拶、紹介をし、影響を防げるように配慮している。		

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にはヘルパー2級以上の資格保有を義務化しており、認知症介護実践研修などは順番に受講している。外部の研修受講は勤務扱いになっており、報告書の作成やカンファレンスでの報告など研修内容の共有にも努めている。	○	職員の増員の予定があるので、組織内外の研修機会が増えることを期待したい。また、管理者の負担を軽減したり、職務の中での職員のスキルアップを図る意味でも、例えば職員間で役割を分担して管理者がスーパーバイズするような取り組みにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。市内の他ホームと相談などをできる関係をつくっている。また、職員が他のグループホームで1週間程度の実習を行う取り組みなどもしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ずホームを体験してもらうようにしている。体験の内容は3日程度ホームに通ってもらい、その後2泊程度してもらい、ホームでの生活に馴染めるか本人・家族・管理者で確認したうえで入居を決定しており、徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「私らしく あなたらしく 共に歩く」ことを介護理念として大切にしており、一緒に行くことを大切にしながら支援している。		

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中のコミュニケーションで思いや意向の把握に努め、困難な場合には家族の力を借りたりしながら本人本位に検討している。職員の担当制を取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向をもとにカンファレンス等で職員の見聞も聞きながら介護計画書を作成している。必要によっては管理者が医師、家族とのカンファレンスに参加している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1～3ヶ月の目標期間に応じた定期的な見直しのほか、状態の変化があったときなどは随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を受けており、医療機関との連携を密にしながら入居者の生活を支えている。担当職員が入居者と一緒に買い物に出掛けたりと一人ひとりの希望にそった柔軟な支援にも努めている。		

グループホーム菜の花園


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師である管理者が通院に同行するなど、かかりつけ医での受診を支援している。月2回医師である法人理事長の往診やその他の医療機関の医師の往診をしてもらえる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を家族に説明しており、終末期に対応する場合には本人、家族、かかりつけ医、ホーム間で確認して同意書を交わしている。職員間でも話し合いながら実際に最期を支えたことがある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等には言葉かけの内容なども記入するようにして、適切な言葉かけや対応ができるように配慮している。個人記録等は開示する対象を厳密にするなど適切な取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	担当職員が入居者と一緒に買い物に行ったり、入居者の希望の物を買ってきたりと一人ひとりの希望にそった支援ができるように努めている。食事の進み具合がゆっくりの方もいたが、急かしたりということなくその方のペースを守って支援していた。	○	職員を増員する予定があるので、更に余裕を持って一人ひとりの希望に応える支援が充実していくことを期待したい。

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは入居者の状態や気持ちに配慮しながら一緒に行ったり、一部を手伝ってもらったりしている。入居者の希望で庭で炭火で魚を焼いたり、バーベキューをしたりということもしている。職員も入居者と一緒に同じ物を食べながら支援していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	主には13:30～16:30の時間帯で、また希望によって夜間の入浴も支援している。毎日入浴する方もいるが、おおむね1日おきに入浴できるよう支援している。入浴が苦手な方も1週間に1回は入浴できるよう支援している。仲の良い方同士で一緒に入浴することもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問時には入居者皆さんで掃除をしていた。生活の中の役割ごとは入居者の負担にならないように注意しながら支援している。華道や習字も取り入れ、地域の文化祭に作品展示をしたり、市民センターのロビーコンサートに出掛けたりと楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良いときには散歩に出掛けたり、花見などの行事的な外出や月1回の外食など戸外に出掛ける機会をつくっている。広いウッドデッキがあり、また庭が広く散策も楽しめるような造りになっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りや気配りのもとで基本的には日中、鍵をかけないようにしている。		

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、そのうち1回は消防署に来てもらい、また地域の方も誘って訓練を実施しており、災害の際の協力について地域の方にもお願いをしている。夜の時間帯に避難訓練を実施したこともある。玄関先には非常持ち出し袋が置いてあった。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は宅配業者を利用しており、栄養バランスが計算された献立になっている。栄養摂取に気を配るべき方については医師と相談しながら支援している。水分は食事やお茶の時間などで必要な量が摂取できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	訪問時は前日が華道の日だったこともあり、入居者の生けた花がところどころに飾ってあり、また入居者と職員と一緒に飾りつけをしたクリスマスツリーが飾られていた。入居者の安全性にも考慮して、ダイニングのブラインドをカーテンに換えるなどしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきてもらうようにしており、それぞれの部屋づくりがされていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。